

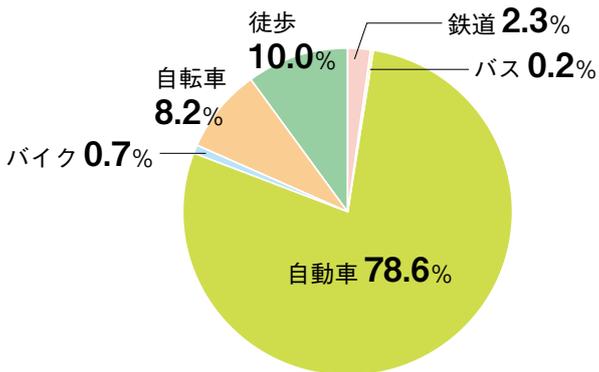
# どうなる？鉄道。 どうする！私たち。

群馬県民の鉄道利用は非常に少なく、このまま利用が増えない場合、将来的に鉄道の運行が維持できなくなる恐れがあります。

鉄道利用について、一緒に考えていきましょう。  
問い合わせ＝広域連携推進室（☎内線 386）

## 01 移動手段

東毛地域の主な交通手段構成比



鉄道利用者が非常に少ないことがわかります。

## 02 鉄道の利用目的

鉄道利用者の利用目的と割合

鉄道で通学…約**60%**

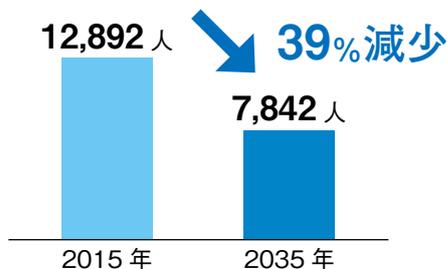
鉄道で通勤…約**10%**

桐生市を通る鉄道の沿線に住み、鉄道を利用しやすい場所に会社がある人のうち、鉄道で通勤している人はわずかしきいません。

通学で利用している人も、社会人になると鉄道を使わなくなってしまうことがわかっています。

## 03 少子化の影響

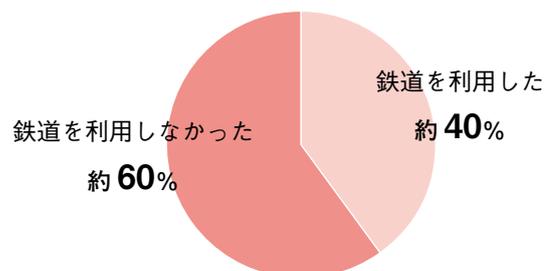
JR 両毛線の通学利用者数推計（人／日）



今後、鉄道利用者はますます減少する見込みです。JR 両毛線だけでなく、東武線や上毛線、わたらせ渓谷鐵道でも同様の減少が見込まれています。

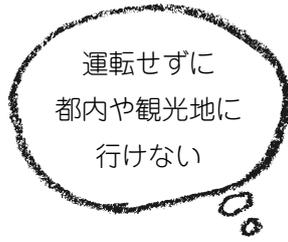
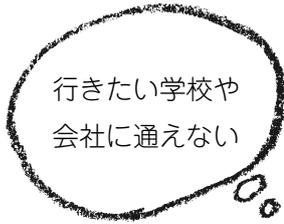
## 04 鉄道の利用割合

ここ1年での外出時における鉄道利用



桐生市を通る鉄道の沿線に住む人の半数以上は、1年間に1回も鉄道を利用していません。

出典：平成 27・28 年度パーソントリップ調査（群馬県）



## もしも鉄道がなくなったら？

鉄道がなくなると、通学・通勤や運転しない人の移動手段がなくなり、地域全体に影響が出ます。鉄道の存続には、日常生活の中で、一人ひとりが運行を支えていく必要があります。週1回、月1回からでも鉄道を使う、意識と行動（アクション）が求められています。

### 【利用促進アクションプログラム】

群馬県では、県内14の鉄道路線別に順次「利用促進アクションプログラム」を公表しています。

各路線の詳しいアクションプログラムは、県ホームページ ([http://www.pref.gunma.jp/04/h21g\\_00063.html](http://www.pref.gunma.jp/04/h21g_00063.html)) をご覧ください。

## 鉄道利用者メッセージ



白木麻由さん

電車の良さは、ゆっくりした時間がとれるところ。

往復2時間、大学への通学で利用しています。車での通学も考えたけれど、友達と話したり、休憩したり、ゆっくりした時間がとれるのは電車だからこそ。平日の昼間はあまり人が乗っていないので、30分に1本運行があれば、もっと多くの人に乗るのかなって思います。

同じ通学時間でも、電車なら勉強や読書ができる。

電車内では勉強したり本を読んだりしています。桐生駅は売店がなくなってしまって寂しいので、またできると嬉しいです。(佐々木さん)  
僕の最寄り駅には階段しかなく、お年寄りの人が重そうな荷物を持って上り下りしています。桐生駅のようにエレベーターができると嬉しいです。(川島さん)



佐々木香月さん 川島颯大さん

「桐生暮らし相談会」を  
東京で開催しました

こんにちは  
市長です



豊かな自然の中でのびのび子育てしたい、そんな夢がかなう黒保根町の定住促進住宅を2月15日に東京交通会館で開催された「桐生暮らし相談会」でPRしてきました。  
この相談会は、情報発信や移住相談のほか、桐生に移住してきた人に自分の体験談を話してもらうことで、移住を考えている人のきっかけとなることを目的に毎年開催しています。今年も「桐生でかえるやりたいこと」をテーマに、桐生で夢を実現した3人の移住者に内容の濃い体験談を話していただきました。3人の話を聞き私もより自信を持ってPRできました。  
移住を考えている人にとって、新しい土地での衣食住は大きな問題です。不安を解消し移住への後押しが少しでもできるよう、これからも必要な情報を発信し、夢をかなえるお手伝いをしていきます。

桐生市長 荒木 恵司